

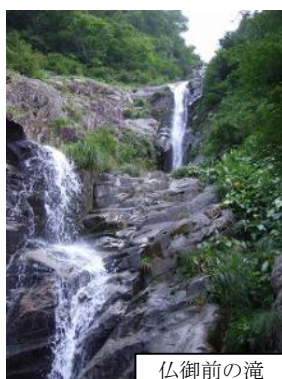
地区名：五箇地区

実施主体：五箇地区むらづくり推進協議会

1 基本データ

- 地区人口 48人（H31.1.1現在）
- 世帯数 26世帯
- 行政区数 4行政区
- 地区面積 約146平方キロメートル
- 地区の沿革

五箇地区は、市街地から約8km東南の位置にあり、西は「日本百名山」の「荒島岳」、東は赤兎山と白山連峰、岐阜県に接し、面積は146km²と広大な林野を占める中山間地域である。



仏御前の滝



魚止



紅葉の刈込池

2 現状と課題

かつての五箇地区は、林業が栄えるとともに、スキーやキャンプ、登山などのアウトドア・レジャーに、また、風光明媚な「刈込池」や「仏御前の滝」、九頭竜川の「魚止め」などを訪れる観光客が多く、民宿業（現在は1軒が営業）が盛んに行われ、一年を通じて賑わいの絶えない所であった。

しかし、相次ぐ災害やダム建設による移住、観光客ニーズの変化による観光業の低迷などから人口の流失と少子高齢化が進行し、それに伴い、小・中学校や郵便局、JAの支所が再編計画の中で順次廃止され、地域の活力は衰退していった。

現在は、JR勝原駅のある西勝原区を中心に、東勝原・上打波・下打波の4集落に27世帯49名が生活をしている。また、無雪期には、市街地から畑や山仕事に通う五箇地区出身者の姿も多く見られるとともに、神社では祭りが催されている。



下打波区祭礼

また、本協議会が実施する「花いっぱい運動」により、JR勝原駅周辺を季節の花で飾り、五箇地区への訪問者を出迎えたり、近所の婦人によって30年ほど前から植樹された花桃並木が、春になると“桃源郷”として注目を集め、満開の季節には遠く中京や関西から観光客が訪れるまでになるなど、「豊かな自然を活かした交流」を目

指して、地区住民が一体となり“ふるさと五箇”の活性化に向けて取り組んでいるところである。



JR 勝原駅



花桃並木

3 平成30年度の事業内容

平成22年度から3年間の「越前おおの地域づくり交付金事業」では、住民協働による故郷の環境保全と、交流人口の増加による地域の賑わいづくりをテーマとし、雑草が生い茂り、埋もれかけた湧水地や不法投棄されゴミに汚された用水路に階段や遊歩道を設け、来訪者が清流を楽しめる親水空間として再生した。さらに、“桃源郷”と表現される花桃並木を核に、地区全体に花が咲き誇る花木の里づくりにも取り組んだ。

また、五箇公民館の北側、花桃並木に続く西勝原区の共有地は、地区住民や五箇地区に縁のある人たちによって植樹された花桃やツジ、ヤマボウシのほか、花壇には季節の花が咲き誇り、来訪者が五箇の自然を楽しめる園地の整備を図っている。特に、4月中旬からの桜、それに続いて花桃が満開を迎える5月上旬にかけては、大勢の見物人で賑わう。ことから、「越前おおの地域づくり交付金事

業」を活用した環境整備を進めてきたところである。



早春の花桃園地



地区住民が手入れしている花壇

平成25年度から3年間の「結の故郷づくり交付金事業」では、これまでの取り組みを継続しながら、園地の一層の充実と来訪者の利便性向上のため休憩施設（東屋）を設置することにした。



【花桃園地整備 (H27)】

休憩施設（東屋）完成

また、平成27年度には、休憩施設（東屋）の完成にあわせて、花桃を地区内外に広く情報発信し、地区住民の連携と親睦を深めるとともに交流人口の増加による地域に賑わいを促進するとし、「五箇のお花見会」と銘うったイベントを開催した。



賑わう会場内

28、29年度は花桃イベント「五箇のお花見会」をさらに盛大に開催するため、駐車場の確保やそこから会場までのシャトルバスの運行、案内看板の充実、警備員の配置等を図ることにより、来訪者の利便性の向上に取り組むとともに、多彩なイベントを実施することにより、地域の賑わいを創出した。

昨年度は桜が散ってからの花桃だったが、今年は桜と花桃が同時に咲くという珍しい状況となった。4月23日（日）には、以前に開催していた「お花見茶屋」やその後、試行的に取り組んだ「お花見会」イベントをさらにグレードアップし、「五箇のお花見会」として五箇地区を挙げての花桃イベントを開催した。

イベント当日は早朝から、地区住民をはじめ各団体等の協力を得て、会場設営を行い、10時のオープニングから、寄せ植えや花桃クラフトづくりなどの多彩な体験コーナー、食のコーナー、物販コーナー、ステージ発表などを開催した。

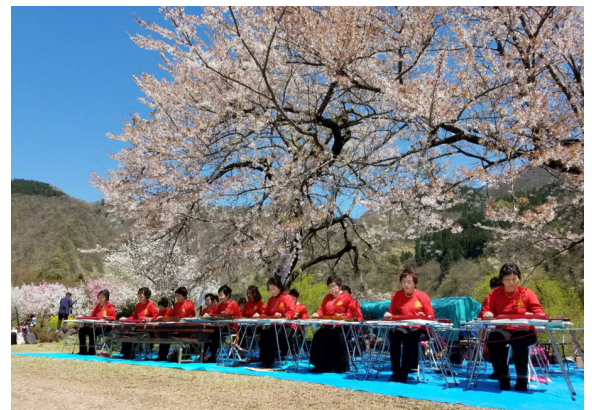
また、地区住民の手作りの「ふるまい鍋」のふるまいや、五箇地区に伝わる神子踊りが披露され、地区住民や五箇地区に縁のある方々、観光客など大勢の方に楽しんでいただき、終日賑やかにイベントを開催することができた。



会場設営（ステージ設置）の様子



花いっぱいの会場内



桜の木の下で発表（大正琴）



旧カドハラスキー場駐車場から会場までシャトルバスを運行



本部テント



地唄舞のステージ



春の花の寄せ植え体験



食のコーナー



クラフト体験



物販コーナー



写真撮影体験



撮影ポイント・花桃ドレス



五箇地区に伝わる神子踊りの披露



神子踊り保存会による生唄



花桃苗の配布

このように、これまでの「結の故郷づくり交付金」を使用し実施してきたイベントの効果もあり、同地区の花桃公園の知名度は市内外へとかなり浸透してきた。

しかしながら、同時に課題も浮き彫りとなった。花桃シーズンが到来すると、イベントがない日でも、特に土日祝日は花桃公園に沿って走る県道には、道路の両側に車列がなされ、車の

通行に支障が出る状況となっている。近隣の駐車スペースは10台程度と数が限られており、ここ数年は毎年、渋滞が発生し、地区住民の交通や路線バスの運行の妨げにもなっている。



イベント日以外でも渋滞する県道



西勝原集落へ入る市道上の来訪者

地区住民も嬉しい反面、生活道の確保が課題となり、毎年訪れる来訪者からも渋滞するから平日にしか行かないとの声もありイメージダウンにもつながりかねない状況にある。

このため、イベント日以外でも、1kmほど離れた旧勝原スキー場の駐車場へ誘導するとともに、西勝原地区の居住地周辺の県道へは駐車しないように促し、通行に支障のないよう看板等を設置し啓発していくこととした。

また、特に渋滞が発生すると予測される土日祝日には、旧勝原スキー場の駐車場までのシャトルバスを運行するとともに交通誘導員を配置

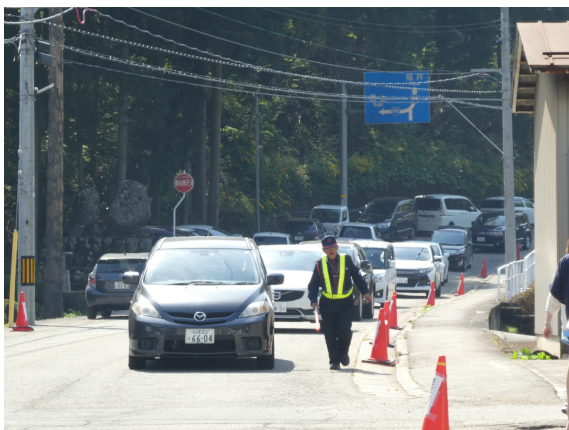
し、渋滞発生の防止に努めることとした。



啓発・誘導案内看板の設置



道路脇の駐車禁止を促すカラーコーン設置



交通誘導員の配置



駐車場からシャトルバスへ乗車



花桃公園近くの県道から乗車

4 平成30年度の事業成果

近年、五箇地区の花桃並木は、テレビや新聞などで報道される機会が増え、県内外から見物に訪れる人が年々増加している。

花桃公園やその休憩施設は、地区住民が集う場となるだけでなく、市内の保育園や老人施設等の園外活動、県外からの花見客などが散策の合間に一息入れる休憩処となり、地区住民と訪問者との交流する拠点として活用されることが期待できる。

また、イベントの開催は、地区住民がさまざまな形で参加し、地区内の交流を深め、一体感を生み出す機会を提供するとともに、交流人口の増加、地区の活性化に寄与してきた。

今回は、浮き彫りとなった生活道の確保等の課題を克服する事業を展開し、地域資源を活かした故郷の拠点保全と住みよい居住空間の両立が図ることができた。

5 今後の展望

花桃公園の整備が完了し、それを活用したイベントの開催は、地区住民をはじめ、五箇に縁のある方々が、「五箇の良さ」を再認識する良い機会となり、また、多くの来訪者を受け入れることで、地区に賑わいを創造することができた。

人口減少や高齢化の進行による地域の減退を少しでも食い止めるため、今後も地区の“宝”である、花桃を核とした取組みを継続し、住民と来訪者が交流する機会や場を充実させていくことで、そこから生じる賑わいが“ふるさと五箇”の活力となることが期待される。

また、このイベントの開催だけではなく、公民館事業でも、寄せ植え体験講座や、花いっぱい運動、花桃の種植え体験講座等に取り組み、参加者に自然に親しんでもらうとともに、花桃や花桃公園への関心を高めてもらう機会を提供するなど、情報発信に努め、さらなる交流人口の増加による地域の活性化を図る取組みを展開していきたい。

さらに、今後とも喫緊の課題に目を背けず、豊かな自然を生かした交流拠点の保持と地区住民のおだやかな生活をどのように両立して地域づくりを進めていくかが求められている。



花いっぱい運動